

応其寺

この静かな寺には、かつて応其（1536-1608）という橋本市の基礎を築いて繁栄へ導いた高野山の僧が住んでいました。多才で強い影響力を持っていた応其は、橋本の地名の由来である紀の川にかかる橋を築き、また米の生産に必要な水を確保するため三つの人工の池をつくりました。

応其は、天下統一を果たした戦国武将、豊臣秀吉（1537-1598）の信頼と尊敬を得るなど、交渉にも長けていました。中央集権を目指す豊臣秀吉は、非協力的なことで知られた高野山の僧たちを屈服させるため高野山を攻撃しました。応其は秀吉と談判にあたり、この仏教の中心地を征服しようとするのをやめるよう説き伏せました。秀吉は応其の論議の能力に感銘を受け、以後、応其をしばしば日本各地に送り、困難な交渉にあたらせました。

応其寺は何度か焼失し、都度再建されました。現在の建物は 1707 年に建てられたと考えられています。正門は江戸時代（1603-1868）に建てられました。黒ずんだ木の門には、今でも 1868 年から 1869 年の戊辰戦争の際、旧幕府軍が撃ち込んだ銃弾の跡が残っています。この戦いで徳川時代（1603-1867）は終わり、明治時代（1868-1912）が幕を開けました。

応其寺は橋本駅から徒歩でわずか 5 分のところにあります。